（６）びわ

ア　露地栽培

時期	対象病害虫 指定有害動植物	防除法	注意事項
			○指定有害動植物に指定されている対象病害虫については、千葉県総合防除計画も参照の上、防除を行う。（https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/sougouboujyoikeikaku.html）
６月～７月	灰斑病 ごま色斑点病 さび病	・落葉処理	○　落葉に付着した病原菌が次の発生源となるので、集めて園外に搬出し、適切に処分する。 ○　苗木や幼木では左記の病害が発生しやすいので、雨よけ又は敷きわらをする。
収穫直後・夏枝伸長期（６月下旬～７月上旬）	がんしゅ病 灰斑病	・カスミンボルドー/カッパーシン水和剤	○　カスミンボルドー/カッパーシン水和剤には薬害軽減のためクレフノンを加用する。 ○　白紋羽病が発生した場合は、９月中旬までに発病樹の樹幹を中心に半径１ｍを深さ 40cm まで掘り下げ、発病部位を剪除し、フロンサイドＳＣをかん注しながら埋め戻す。
	ナシヒメシンクイ	・パダンＳＧ水溶剤	
７月中旬～９月	クワカミキリ	・園芸用キンチョールＥ又はロビンフッド	○　クワカミキリ成虫は７～８月に多く発生するので、園内を見回り捕殺する。また、枝に咬み傷を付けて産卵するので、木づち等で卵を叩いてつぶす。成虫の防除には、モスピラン顆粒水溶剤を使用する。
８月上旬～中旬	カイガラムシ類	・アタックオイル又はトモノールＳ（マシン油(97%)乳剤）	○　高温時にマシン油乳剤による防除を行うと、薬害が発生するおそれがあるため、防除は朝方又は夕方に実施する。 ○　モンクロシャチホコ幼虫（フナガタケムシ）は若齢のうちは集団でいるので、その時期に捕殺する。
８月下旬～９月中旬	さび病 カイガラムシ類	・剪定	○　重なり枝やカイガラムシの多発枝等を摘除し、樹幹内の風通しを良くする。
剪定後（９月中旬～下旬）	がんしゅ病	・カスミンボルドー/カッパーシン水和剤	○　カスミンボルドー/カッパーシン水和剤には薬害軽減のためクレフノンを加用する。 ○　樹幹の病斑部はなるべく広く完全に削り取り、傷口の回復を図るため、トップジンＭペースト原液又は木工用ボンド等を塗布する。
10 月上旬～下旬	クワゴマダラヒトリ	・巣網の除去、捕殺	○　クワゴマダラヒトリの若齢幼虫は桑やアカメガシワなどの樹に巣網を張って集団でいるので、10 月上旬～中旬に園周辺を見回り捕殺に努める。11 月になると幼虫は分散してしまう。 ○　アブラムシ類の多発園では、ロディー水和剤を用いた防除を行う。
新葉展開期（３月上旬～中旬）	がんしゅ病 灰斑病	・カスミンボルドー/カッパーシン水和剤	○　カスミンボルドー/カッパーシン水和剤には薬害軽減のためクレフノンを加用する。
	アブラムシ類	・モスピラン顆粒水溶剤	
	カメムシ類 モモチョッキリゾウムシ	・袋かけ	○　カメムシ類の発生量は年次変動が激しく、地域差もあるため、病害虫発生予察情報等を参考にする。 ○　カメムシ類の被害が予想される場合は、「びわ２号二重袋」を使用する。 ○　炭疽病の多発園では、袋かけ前にアミスター１０フロアブルを用いた防除を行う。

時期	対象病害虫 指定有害動植物	防除法	注意事項
４月下旬	アブラムシ類	・オリオン水和剤４０	
５月上旬 ～中旬	カメムシ類	・アドマイヤーフロアブル	○　カメムシ類は年により発生量が異なるので、発生予察情報に注意し、適期防除を行う。 ○　果実が肥大すると袋に接触して被害を受けやすくなる。 ○　アドマイヤー、テルスター共に殺虫効果の他、吸汁阻害効果がある。テルスターのほうが残効が長い。 ○　収穫７日前～収穫期間中のカメムシ類の防除にはテルスター水和剤を用いる。 ○　収穫期間が長引き、更にカメムシ類が侵入したときにはロディー水和剤を用いた防除を行う。 ○　アブラムシ類を防除する場合は、テルスター水和剤又はロディー水和剤を使用する。
収穫期 （５月中旬 ～６月中旬）	カメムシ類	・テルスター水和剤 又はテルスターフロアブル	

イ　施設栽培

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
収穫直後 （５月下旬）～７月中旬	灰斑病	・剪定、落葉処分	○　樹幹内の風通しを良くして、薬剤効果を高める。 ○　落葉に付着した病原菌が次の発生源となるので、集めて園外に搬出し、適切に処分する。
		・トップジンM水和剤 又はフロンサイドＳＣ 又はベルクート水和剤	○　ごま色斑点病を防除する場合は、トップジンM水和剤を使用する。
	アブラムシ類 カイガラムシ類	・モスピラン顆粒水溶剤	○　カイガラムシ類ではナシシロナガカイガラムシ、コナカイガラムシ類が発生する。この時期に歩行するふ化幼虫を防除する。
	ビワサビダニ ミカンハダニ	・ビニール被覆の除去 ・サンマイト水和剤	○　被覆を除くことにより、たてぼや病の原因となる秋期のビワサビダニの発生を抑制できる。 ○　ハダニ類は高温･乾燥条件で多発しやすい。 ミカンハダニにはバロックフロアブルでもよい。
被覆除去後 （７月中旬～下旬）	灰斑病 がんしゅ病	・カスミンボルドー/カッパーシン水和剤	○　カスミンボルドー/カッパーシン水和剤には薬害軽減のためクレフノンを加用する。 ○　白紋羽病が発生した場合は、９月中旬までに発病樹の樹幹を中心に半径１ｍを深さ 40cm まで掘り下げ、発病部位を剪除し、フロンサイド SC をかん注しながら埋め戻す。
	ナシヒメシンクイ	・パダンＳＧ水溶剤	
７月中旬 ～９月	クワカミキリ	・園芸用キンチョールＥ又はロビンフッド	○　クワカミキリ成虫は７～８月に多く発生するので、園内を見回り捕殺する。また、枝に咬み傷を付けて産卵するので、木づち等で卵を叩いてつぶす。成虫の防除には、モスピラン顆粒水溶剤を使用する。
８月上旬 ～中旬	カイガラムシ類 ミカンハダニ	・アタックオイル（マシン油(97%)乳剤）	○　高温時にマシン油乳剤による防除を行うと、薬害が発生するおそれがあるため、防除は朝方又は夕方に実施する。 ○　モンクロシャチホコ幼虫(フナガタケムシ)は若齢期は集団でいるので、その時期に捕殺する。
９月下旬 ～10 月上旬	さび病 カイガラムシ類 ハダニ類	・剪定	○　重なり枝やカイガラムシの多発枝等を摘除し、樹幹内の風通しを良くする。 ○　クワゴマダラヒトリの若齢幼虫は桑やアカメガシワなどに巣網を張って集団でいるので、10 月上旬～中旬に園周辺を見回り除去する。11 月になると幼虫は分散する。春になって越冬幼虫が園内に侵入すると防除は困難である。

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
11 月	灰色かび病	・フルピカフロアブル	○　ビワサビダニの加害痕に灰色かび病菌が感染して、たてぼや病が発生する。開花後の苞内に侵入したビワサビダニに対する薬剤の効果はないため、増殖する前の開花始期に防除する。 ○　受粉にミツバチを利用する場合、サンマイト、ジマンダイセン/ペンコゼブは使用後悪影響を及ぼすおそれがあるので注意する。
	ビワサビダニ	・ダニエモンフロアブル 又はサンマイト水和剤	
	たてぼや病	・ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤	
12 月	ハマキムシ類	・ゼンターリ顆粒水和剤	○　ホソバチビヒメハマキの幼虫が幼果を食害する。
12 月～1 月	灰色かび病	・ベルクート水和剤 又はフルピカフロアブル	○　たてぼや病の発生が多い園では、この時期にも灰色かび病を防除する。
袋かけ前（1 月上旬～下旬）	カイガラムシ類幼虫	・アプロード水和剤	
幼果期（2 月上旬）	カメムシ類 モモチョッキリゾウムシ	・袋かけ	
3 月下旬	ハダニ類	・ダニトロンフロアブル	

農薬登録情報（農薬名順）

- 殺菌剤
- 殺虫剤
- 展着剤及びフェロモン剤

農薬登録情報（RAC コード順）

- 殺菌剤
- 殺虫剤
- 展着剤及びフェロモン剤